

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

越智秀樹、勝見泰和、片山憲史ほか. 変形性膝関節症に対する運動療法を併用した鍼灸治療の効果-運動療法併用の重要性の検討-. *東洋医学とペインクリニック* 1993; 23(3): 136-142. 医中誌 Web ID: 1994241815

越智秀樹、片山憲史、池内隆治 ほか. 変形性膝関節症に対する運動療法を併用した鍼灸治療、*全日本鍼灸学会誌* 1990; 40(3): 247-253. 医中誌 Web ID: 1991224289

1. 目的

変形性膝関節症に対する鍼灸治療の運動療法併用効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属病院整形外科、京都、日本

4. 参加者

変形性膝関節症と診断された患者 19 名

5. 介入

Arm 1: 鍼・SSP・運動の併用群 (6 名、平均年齢 59 歳)。

Arm 2: 鍼・SSP の併用群 (7 名、平均年齢 51 歳)。

Arm 3: 運動療法単独群 (6 名、平均年齢 68 歳)。

鍼治療は週 1 回、ステンレス製ディスポーザブル鍼 (0.18×40mm)を用い、大腿部 9 か所と風市 (GB31)、足三里 (ST36)、陽陵泉 (GB34)、陰陵泉 (SP9) に雀啄術を行った。SSP 療法は膝関節-大腿間に通電 (粗密波、10 分)した。運動療法は自宅で膝の筋力強化運動を行わせた。治療期間は 1 か月。

6. 主なアウトカム評価項目

独自に作成した評価表 (ADL、理学所見、痛みの総合評価) および筋力測定

7. 主な結果

初診時と一か月後のスコアの比較では、Arm 1 と Arm 2 で有意 ($P<0.01$) に増加したが、Arm 3 ではわずかな増加に留まった。膝伸展筋力は、Arm 1 と Arm 3 で有意な増加 ($P<0.05$) が見られたが、Arm 2 では有意ではなかった。

8. 結論

鍼治療・SSP 療法・運動療法の併用は有用な方法である。

9. 鍼灸学的言及

関節内刺鍼の危険性について言及があり、その代替法として SSP 療法が用いられている。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

膝 OA 患者に用いられている鍼治療以外の SSP 療法や運動療法の組合せ効果を調べた研究であり、有意な効果の違いを明らかにした貴重な報告である。しかし、各群が 6-7 名と少ないこと、統計処理が群内比較のみで群間比較が行われていないこと、治療後の効果の解析が行われていないこと、などは今後の課題である。しかし、実際の臨床に即した課題としてデザインされた本研究の意義は極めて高いものであり、サンプルサイズの事前設計と WOMAC を評価法に加えたより質の高い臨床試験が実施されることが強く望まれる。著者らの 1990 年の論文はその内容が同じであり、抄録作成は本論文のみに留めた。

12. Abstractor

川喜田健司 2012.1.30